

平成22年度 第2回二宮町ごみ減量化推進協議会 会議録

日時：平成22年10月25日(月)

午前10時～午前11時40分

場所：二宮町役場2階公室

出席者：露木会長 / 浅田委員 / 山田委員

事務局：筑紫生活環境課長 / 生井生活環境班長 / 須田主任主事 / 松本主事補

傍聴者：1名

1. 開会

2. あいさつ

会長より

3. 議題

会長より

(1)二宮町の廃棄物処理の現状について

(2)今後のごみの減量化施策について

(3)今後のスケジュールについて

(4)その他

(1) 二宮町の廃棄物処理の現状について

『事務局から資料1-1、1-2、1-3の説明』

【意見・質問等】

会 長：ごみは不況などの社会情勢的な要素を受けるもので、特に事業系ごみは景気の影響が大きい。しかしそういった要因が関わってくる中でも、ごみを減らそうという基本的な姿勢はあり、そうした部分も捉えながら進めていきたい。

(2) 今後のごみの減量化施策について

『事務局から資料2(2)●事業用ごみ袋について説明』

【意見・質問等】

委 員：事業用の45リットルの袋の価格はいくらか？

事務局：20枚入りで1,800円、1枚90円、ごみ1リットルあたり2円である。

委 員：事業系といっても薬局と青果店ではごみの内容や量が全く違うと思う。青果店で

売れ残った野菜は、収集に出されず他にいつているのだろうか？

事務局：収集に出されている。ただし年間9トン以下という範囲の中で、黄色い事業用の袋で出してもらっている。

委員：鮮魚店などに対しては回収する専門の業者があるようだが。

事務局：それは豚などの飼料に使えるので、そういうルートがある。ルートがないものについては、町の収集に出される。

委員：それでは飲食店での残飯なども出されているということか。

委員：出されており、重量的にはそれがいちばん重く、水分が多い。

事務局：平塚市ではそうした事業所から出るごみは収集しない。事業者が排出するごみは自己責任であるという考え方に変わってきている。二宮では事業所への指導をどのようにするかが問題である。

委員：事業所が理解できるようにPRする必要がある。知らない事業者がまだ多いのではないか。

事務局：事業用指定ごみ袋があまり使われていないのではないかという話がいろいろなところから入ってくる。そうであれば、きちんと使っている事業者とそうでないところの間に不公平が生まれることになり、是正しなければならない。

会長：町内には事業用の袋を使う対象となる事業所はどのくらいあるのか？

事務局：事業所のごみ処理手数料が申告制だったときは、400弱がごみを出していると申告していた。

会長：一律に指導を行って効果を出すのは難しいのではないか。ケースにあわせたほうが良いと思う。

事務局：現状をもっと把握する必要があり、徐々に地道に回るしかない。いただいたご意見を一度まとめて、どういう方向で対応したらよいか考えたい。

『事務局から資料2(2)●水分ひとしぼり、●3Rの推進について説明』

委員：各々ができる方法で水分を減らせば節税になる。三角コーナーや排水口に使うと、調理くずが水を含むため、なるべく三角コーナーや排水口に入れずに干すということ、何かの折に説明したらいい。

事務局：言われる通り半分が水分である。水切りネットの効果には疑問があるという声があるが、少しでも水分を減らしてほしいので、水分削減を促すPRの一環でもある。

会長：水分の切り方については、具体的にいくつかの方法を提案するという形でPRしていくと、もっと効果が出ると思う。

会長：手でしぼろうとしても、しぼりきれないという部分はあると思う。

委員：全ての人が一度やると、かなり違ってくると思う。しかし、なかなかやってもら

えないというのが問題である。

事務局：水切りは頭の痛い問題だが、町としてはいろいろなごみ減量策をやってきており、もう水分対策くらいしか残っていない。水分さえ減らすことができれば重さが全然違ってくる。二宮のごみは分別が進んでいるために、水分が多く燃えにくいと言われている。資源物を徹底的に抜いているので、カロリーがあるものはほとんど残っていない。

会 長：この問題に対しては、何か良い案が他市などにはないのか？

事務局：厨芥類だけを別に収集しているところは、それなりに徹底したお願いを住民にできる。しかし二宮は可燃ごみの中に厨芥類が含まれており、可燃ごみの中でいちばん水分が多いのが厨芥類なので難しい。厨芥類を別に集めれば指導も徹底できるが、収集を分けることも、厨芥類のみを単体で処理するのも容易でない。

会 長：厨芥類だけをこれまでと別の方法で収集処理するには相当コストもかかるだろう。

事務局：分別収集をせずに、可燃ごみから機械で厨芥類を抽出することを検討している自治体もある。しかしあとの処理の効率がまるで違うため、現実的にははじめから分けて収集しないと難しい。

会 長：現状は水切りネットで対策していくということだ。

事務局：水を切ってくださいという町の思いをPRする手段として続けていきたい。

(3) 今後のスケジュールについて

『事務局から資料2(3)の説明』

(4) その他

『事務局から参考資料等の説明』

4. 閉会